

◆現地支援レポート No4

原看護師さん

4/6 18:53 「今日は中断患者さんの安否確認と訪問に行きました。路上一本入ると、車は山積で、油とヘドロ臭いにおいと埃が充満していて、支援が行き届いていない状態でした。」

信野事務次長 4/6 19:05

<報告1> 「昨日は津波で流れたカルテの搜索でした。かなり広範囲に流されたカルテのおおよその場所を地図に記して、到底拾えないことを行政に示すためです。埃が舞い、瓦礫が散乱する田んぼの間での作業でした。」

<報告2> 「今日は、避難所での作業でした。衛生面の改善がその避難所の課題だったので、次亜塩素酸で手の触れるところを拭いてまわり、建物内の清掃を行いました。多賀城中学校という避難所でしたが、約350人が非難してきていて、日中はほとんどの人が家に片付けに出ています。午後は足湯を行い、15の方が利用されました。震災以来まともにお風呂に入れていない人もいて、大変喜ばれました。足湯をしながらスタッフと話ができることも楽しそうでした。」



4/7 8:30 毎日、支援者と現地職員で朝会をやります。今日は中に入れませんでした。現在支援者は100人弱くらいだと思います。

西原先生

4/7 11:59 6・7日も引き続き避難所での診察をしています。

今回の地震は、地震の揺れによる建物崩壊はあまり強くなかったようで、ほとんどが津波による被害です。このため、震災直後も、外傷の患者は少なく、水に浸かって低体温の患者が多かったそうです。震災後4週間になりますが、少し暖かくなってきたこともあり、避難所の感染症も落ち着きつつあります。やはり今後は医療のニーズより福祉面のニーズが増してくる感じです。

ただし、家庭訪問をした原看護師からの報告では、津波で建物1階程度が浸かった家でも、とても汚い油混じりの海水に浸かったため、かなりの泥の悪臭が強いようです。また、周囲の埃も多く、マスクをしていても喉の刺激があるとのこと。今後呼吸器疾患の増加が心配です。被災者の方々のいろいろな経験談を聞かせてもらいながら、今後の支援活動の新しい内容を考えていく時期のようです。

最後の支援物資、本日東京にむけて発送しました。

(引越しらくらくパック 2パック分ありました)

※ 各事業所におかれましては、受付窓口等に「支援物資の受け付けは終了しました」「ご協力ありがとうございました」などの表示をだしてください。